

平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自ら気づく人を育てる」を目標に掲げ、「茨西 PRIDE」のもと生徒の志をカタチにするため、家庭と地域を巻き込んだ教育活動を展開することで茨西ブランドを確立する。

1. 確かな学力を基礎に、志高い進路目標を実現する生徒を育成し、中堅大学に進学実績を持つ学校をめざす。
2. 「使える英語プロジェクト」事業を核に、指導法を研究して生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成し国際社会に通用する人材を育てる。
3. 生徒会活動・部活動等の充実を図り、規律規範意識を高め、健康で心豊かな人間を育成する。
4. 学校と家庭・地域をつなぐ活動を通して、生徒自身の誇りと母校愛を醸成するとともに、社会を創っていく態度を涵養する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。
 - ア 年間行事計画に、公開授業や研究授業を明示し、全教員が授業アンケートを実施し、結果を分析して授業改善に組織的に取り組む。
 - イ ICT を活用した公開授業を増やし、機器の活用方法を含めた「魅力ある授業」展開を共有できるようにする。
- (2) 「使える英語プロジェクト」事業を活用して、英語の指導法の研究・教材作り・学習機器の活用等を進める。

※「使える英語プロジェクト」事業に取り組み、英語 I の教科書を学年を越えて繰り返し使用し、従来の授業形態で「使える英語」を身に付けさせる指導法を作り上げる。
- (3) 授業規律を統一的に指導するとともに、自学自習・家庭学習の習慣を身に付けさせる。
 - ア 全教員でベル着を始めとする授業規律指導に努め、授業を大切にす文化をつくる。
- (4) 補習、講習、自学自習支援など、学力向上のための効果的具体的な方策を実行する。

2 キャリア教育をさらに充実させ、志を高く持つ生徒の育成

- (1) 勤労観・職業観の育成に努め、生徒が3年間を通して自己理解を深めるとともに、具体的な進路目標を設定し、実現できるよう指導する。
- (2) 生徒が適切な進路選択をし、より高い志を持って目標設定ができるよう、適切な情報提供を行い、個に応じた指導を進めて行く。
 - ア 基礎学力調査を活用し生徒実態の正確な把握に努め、生徒の学習意識も高める。
 - イ 教育産業の講習や模擬試験も適宜導入する。

※進路希望調査を複数回実施し、3年生で未定者をなくす。
- (3) 「高大連携」の取組みをより充実させ、進路意識向上に活用する。

3 規範意識の醸成と生徒の理解促進及び生徒の健康・安全確保と学習環境の整備

- (1) 基本的生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。
 - ア 全教員による統一した頭髪・服装・遅刻指導を進める。

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目を精査し、肯定率を平成 26 年度には 80%以上にする。
- (2) 生徒一人ひとりの状況を把握し、理解する。
 - ア 生徒への意識的な声かけに努め、授業・終礼・部活動など様々な場で生徒を把握する。
- (3) 交通安全指導・通学マナーの充実に努める。
- (4) 学習環境の整備に努める。
 - ア 校内点検を定期的に行い、安全な環境の維持に務める。
 - イ 校内事故等へより迅速に適切に対応する体制を作る。
 - ウ 生徒の校内・校外美化への意識を高め、責任感を持たせる。

※遅刻指導に努め、遅刻者数を減少させ、平成 26 年度には平成 23 年度比 20%減にする。

4 生徒の自己肯定感・帰属意識の向上と学校・家庭・地域の連携強化

- (1) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図る。
 - ア 人間関係づくりを行う力やコミュニケーション力を高め、達成感や帰属意識の向上も図る。

※部活動加入を推奨し、加入率を引き上げ、平成 26 年度には 70%以上にする。
- (2) 「中高連携」、「小高連携」の取組みを進めるとともに「地域交流協議会」を更に充実させる。
 - ア 生徒の成長を支援・指導するため、中学校との連携を深めて生徒の状況把握に務める。また、本校の教育活動の様子を、小学校や中学校（中学生）、地域に情報発信する。
 - イ 「茨西 PRIDE」を掲げ、地域へのボランティアや行事協力など地域貢献を一層進め、参加者数や回数を増加させる。
 - ウ 地域の人材や地域の施設等の地域力を本校の教育活動や、部活動に積極的に取り入れる。

※3年間に生徒全員が少なくとも1度は地域貢献活動に参加するように組織的に取り組む。
- (3) 学校と地域をつなぐ望ましい PTA 活動を展開する。
 - ア 公開授業や体育祭・文化祭等の学校行事への参加を積極的に支援し、学校・家庭・地域の交流を図る。
 - イ 親学習教材等を活用した PTA 研修を実施する。
- (4) 府立学校条例に基づいた「学校協議会」の運営をおこなう。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ・興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に向け、ICT 機器の活用やグループ討議等に積極的に取り組んだが、生徒向けの「授業はわかりやすく楽しい」に対する肯定的な回答は 51.0%であった。次年度は「茨西スタンダード」を確立し、授業内容に興味関心を持つことができ、授業がわかりやすく楽しいとなるよう教科等による授業研究を活性化する必要がある。なお、ICT を活用した授業に対する肯定的な回答は、教員 75.0% 生徒 68.0%で、活用に対する意識の差な	第 1 回 (10/11) ○授業規律について ・「業間遅刻」とは一般にはなじみのない言葉だが、遅刻者への指導はどうしているのか。しっかりした指導がされている。ほめることや励ましなどによる、学校に行きたいという意識づけをすることも大切。 ○交通安全指導・通学マナーについて ・地域から見ていると、部活動の朝練に参加する生徒が多くなってきたからとい

府立茨木西高等学校

<p>くすため、ICT を活用する目的を生徒に明確に示し理解度を確認していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学の実施では、教員向けは 77.4%であるのに対し、生徒向けでは 61.4%となっている。必ずしも一致するものではないと思うが、更なる教員相互の授業見学の取組みが必要である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員による統一した頭髪・服装・遅刻指導に取り組んだ結果、生徒指導方針への共感度は、生徒向け 57.5%・保護者向け 70.1%であった。家庭と連携しながらきめ細やかな生徒指導の更なる充実が課題である。 ・進路指導においては、より高い志を持って目標設定ができるよう、適切な情報提供を行い、個に応じた指導についての満足度は、生徒向け 70.0%・保護者向け 68.7%であった。特に情報提供については、保護者向け 55.4%であり改善策の検討が喫緊の課題である。 <p>【地域連携等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域の連携強化に取り組んでいるが、地域とのかかわりに関する思いは、生徒向け 49.8%・保護者向け 85.9%であった。実際に参加する生徒の割合と自分は関わらないが、学校として連携強化に取り組んでいると考えている保護者が多い結果である。生徒・保護者が積極的に地域と関わる取組みが課題である。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用について、90.3%の教職員が肯定しているが、見ている生徒は 24.9% 保護者は 28.0%である。情報提供しても閲覧されなければ意味がないので、生徒・保護者への啓発が喫緊の課題である。 ・校長のリーダーシップが発揮されているでは、教職員向け 84.4%・保護者向け 65.4%であった。保護者への情報提供の一層の推進が必要である。 ・「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」と回答した教職員が 60%であったが、新学習指導要領説明会での各教科の留意点を報告させた。また、人権研修では職員による寸劇を交えた事例研修をもとにグループ協議を行い人権意識の更なる向上を図った。 	<p>うのもあるでしょう。そのような生徒はマナーもよろしい。交通安全指導で、穂積小学校区では、通学路の歩行ゾーンに青いペンキを塗って車から見やすくする安全対策も行う予定。</p> <p>○進路実現について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの取組みは大変良い。自分で大学のことを調べる機会を持たせることはとても大切。 ・生徒より親の方が熱心です。自分の目で見て、確かめたことは強く印象に残ります。その意味で西校のフィールドワークは大変有意義な取組み。 <p>○学校生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市内の中学校で、西校の先生は面倒見がいい、という評価を聞いている。高校選びをするときに参考となる様々な資料も、西校のものは潤沢に行き渡っているとのこと。その点でも高い評価を得ている。 ・他の学校の保護者の方の中には、子供はなんとか学校には行っているが、あまり楽しくなさそうに見える、という人も多くいます。親としては、子供と学校とのマッチングを常に心配しています。その点西校は、高校生活を生き生きと楽しんでいる生徒が多いと思います。がんばっているクラブや生徒にどんどん支援をしていって欲しい。 <p>第2回 (2/7)</p> <p>○平成 24 年度学校経営計画の自己評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西高に対する地元の評価は本当に高い。地域への行事にも積極的に参加されていて、地域に溶け込んでいる印象を持っている。地元からの声も一つの評価指標に加えてはどうか。単純に右肩上がりの数字をめざすだけでは、しんどいと思う。 ・学校のレベルが上がっている。 <p>○平成 25 年度学校経営計画の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標以外の指標を設けるべきではないか。それだけでは計れないものがあると思う。 ・地元の方々に評価されていることが、他の市に住んでいる方々には伝わっていない。そういった点では、IBANISHI NEWS をもっと配布すべきではないか。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、授業の改善・充実に努める。</p> <p>ア 公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用して授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>イ ICT 機器を活用した授業改善を目標に活用の研究を進める。</p> <p>(2) 「使える英語プロジェクト」事業を活用して、英語の指導法の研究・教材作り・学習機器の活用等を進める。</p> <p>(3) 授業規律を統一的に指導するとともに、自学自習・家庭学習の習慣を身に付けさせる。</p> <p>ア 全教員でベル着を始めとする授業規律指導に努め、授業を大切に作る文化をつくる。</p> <p>(4) 補習、講習、自学自習支援など、学力向上のための効果的具体的な方策を実行する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・全教員が、授業アンケートを年二回実施し、教科として、個人として授業改善に取り組むとともに、生徒に対して学習のアドバイスを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業見学、研究授業・授業研究、授業公開等の取組みを進め授業力向上を進める。 ・「学びの接続」を図るため、中学校との相互授業見学等を行う。 <p>イ・ICT 機器の授業での積極的活用を目標に、情報交換や研修会を行う。</p> <p>(2)</p> <p>事業 2 年目は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Input、Intake の授業実践を行う ・成果の検証と評価を行う <p>(3)</p> <p>ア・ベル着指導や授業規律の指導を統一的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学期に冊子『学びのすすめ』やシラバスを活用して指導する。 ・新入生には高校での学ぶ姿勢を指導する。 ・授業アンケートで、自身の学習態度を確認させ、改善させる。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自習室や学習サポーターを活用して、自学自習の習慣を身に付けさせる。 	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートの授業肯定的回答 8 割以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業見学 90%実施 ・研究授業を複数回実施 ・授業研究の実施 <p>(2)・英検受験者数 100 名以上、合格率 80%以上</p> <p>(3)</p> <p>ア・業間遅刻者数 0 をめざす</p> <p>(4)・学習サポーターの活用、年間延べ 30 回以上</p>	<p>(1)ア・授業アンケートは、年 2 回実施でき、板書が分かり易い、興味関心を持てる工夫があるなどに対する肯定的回答 8 割以上であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向け自己診断で相互の授業見学 77.4%であった。次年度の授業力の評価を活用して自己診断で 80%以上をめざす(△)。 ・研究授業は、年 9 回実施できた。(◎) ・英語を中心に 5 回の授業研究を実施した。次年度は、パッケージ研修をもとに「茨西スタンダード」を確立し各教科 1 回以上の実施をめざす。(○) (2)・英検受験者数 102 名、合格率 50%(1 回目)。2 回目の結果は、まだであるが合格率は、評価指標に達していない。ダブルレット端末の活用など別の指標評価に重点を置いていきたい。(△) (3)ア・遅刻者数は、前年比 5%減少であったが、業間遅刻の実態把握は難しく評価指標の変更が必要である。 (4)・学習サポーター 30 回/年実施。(○)

府立茨木西高等学校

2 キャリア教育をさらに充実させ志を高く持つ生徒の育成	<p>(1) 勤労観・職業観の育成に努め、生徒が3年間を通して自己理解を深めるとともに、具体的な進路目標を設定し、実現できるよう指導する。</p> <p>(2) 生徒が適切な進路選択をし、より高い志を持って目標設定ができるよう、適切な情報提供を行い、個に応じた指導を進めて行く。</p> <p>ア 基礎学力調査を活用し生徒実態の正確な把握に努め、生徒の学習意識も高める。</p> <p>イ 教育産業の講習や模擬試験も適宜導入する。</p> <p>(3) 「高大連携」の取組みをより充実させ、進路意識向上に活用する。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の校内進路研修会を実施するとともに、各種教育産業の研修にも参加し、進路指導の充実に努める。 ・生徒の進路意識を向上させるため1、2年でフィールドワーク、分野別進路説明会、進路ガイダンス等の取組みを一層推進する。 ・各教科と連携し、組織的な進学講習等を推進し、生徒が目標をめざして最後まで諦めず、ねばり強く努力するよう指導する。 <p>(2)</p> <p>ア・調査を年複数回実施し、学力の変化を測定し、適切な指導を行うとともに、自身の力を把握させ、努力に結びつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者に対し、教育産業の実施する模擬試験及び進学講習の校内実施を行い、自己の進学意識向上と目標設定、実力養成の手がかりとさせる。 ・学年ごとの成績、進路希望等のデータ蓄積を更にすすめ、継続的指導を行う。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学講義聴講を進めるとともに、大学の出前講座を導入する。 ・インターンシップ生の受け入れを進め、文化祭準備、生徒学習支援、授業サポートなどに活用する。 	<p>(1) ・進路ホームルーム年間5回以上実施</p> <p>(2)</p> <p>ア・学力実態調査の複数回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験受験者80名以上 ・教育産業による進学講習受講者、各学年40名 <p>(3) ・連携大学の大学講義聴講に年間20名以上の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学講義聴講20名 ・インターンシップ生導入20名 	<p>(1)進路に関するHRは、年7回実施できたが、キャリア教育の位置づけを明確にするのが課題。(○)</p> <p>(2)ア・学力実態調査1、2年各2回、3年1回の実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験(2/3実施)受験者56名 ・教育産業による進学講習受講者数は、126名であったが、1、2年は40名未満であった。1、2年のフィールドワーク後の指導等の進学意識向上に努めたい。(△) <p>(3) ・連携大学等の大学講義聴講参加者13名。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ生導入27名。(◎)(1)との関連付けを明確にし、人数よりも、プログラムの充実を図る。
3 規律規範意識の醸成と健康安全確保	<p>(1) 基本的生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。</p> <p>ア 全教員による統一した頭髪・服装・遅刻指導を進める。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの状況を把握し、理解する。</p> <p>ア 生徒への意識的な声かけに努め、授業・終礼・部活動など様々な場で生徒を把握する。</p> <p>(3) 交通安全指導・通学マナーの充実に努める。</p> <p>(4) 学習環境の整備に努める。</p> <p>ア 校内点検を定期的に行い、安全な環境の維持に務める。</p> <p>イ 校内事故等へより迅速に適切に対応する体制を作る。</p> <p>ウ 生徒の校内・校外美化への意識を高め、責任感を持たせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・遅刻者減少のために段階的に指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装・頭髪の指導は、全教員がこまめに粘り強く行う。 <p>(2)</p> <p>ア・生徒に日常的意識的に声かけ等を行い、コミュニケーションを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保健だより」を発行し、啓発に努める。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学安全の講演会を実施し、粘り強く指導する。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外壁工事の実施に伴う、学校環境の安全確保に努める。 <p>ア・安全点検を行い、情報共有を進め、問題点は迅速に解消する。</p> <p>イ・校内事故等への迅速な対応体制を強化し、確実な情報を共有する。</p> <p>ウ・日々の清掃の徹底を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・遅刻生徒延べ数の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率を平成26年度には80%以上にする。 <p>(2)</p> <p>ア・「保健だより」の発行20回以上</p> <p>(4)</p> <p>ア・安全点検年3回以上実施</p> <p>ウ・大掃除を年5回以上実施</p>	<p>(1)ア・遅刻者数は、9,209名から6,637名に減少(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導方針への肯定率57.5%(H24)。 <p>(2)ア・「保健だより」の発行12回。(△) 評価指標の見直しが必要。</p> <p>(3)平成24年度学校安全文部科学大臣表彰(◎)</p> <p>(4)ア・安全点検年3回実施。(○)</p> <p>ウ・大掃除を年6回実施できたが、学校教育自己診断結果の教員向けの「清掃ができています。」の回答が46.9%であった。清掃監督だけでなく、率先垂範して清掃活動に取り組む教員の意識改革が課題である。</p>
4 生徒の自己肯定感・帰属意識の向上と学校・家庭・地域の連携強化	<p>(1) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図る。</p> <p>ア 人間関係づくりを行う力やコミュニケーション力を高め、達成感や帰属意識の向上も図る。</p> <p>(2) 「中高連携」、「小高連携」の取組みを進めるとともに「地域交流協議会」を更に充実させる。</p> <p>ア 生徒の成長を支援・指導するため、中学校との連携を深めて生徒の状況把握に務める。また、本校の教育活動の様子を、小学校や中学校(中学生)、地域に情報発信する。</p> <p>イ 「茨西PRIDE」を掲げ、地域へのボランティアや行事協力など地域貢献を一層進め、参加者数や回数を増加させる。</p> <p>ウ 地域の人材や地域の施設等の地域力を本校の教育活動や、部活動に積極的に取り入れる。</p> <p>(3) 学校と地域をつなぐ望ましいPTA活動を展開する。</p> <p>ア 公開授業や体育祭・文化祭等の学校行事への参加を積極的に支援し、学校・家庭・地域の交流を図る。</p> <p>イ 親学習教材等を活用したPTA研修を実施する。</p> <p>(4) 府立学校条例に基づいた「学校協議会」の運営をおこない、保護者等との連携協力、学校運営への参加の促進を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・部活動加入率を高めるため、年度当初のクラブ紹介・仮入部制など、部活動を身近なものにするよう充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭・文化祭などで各学年が分担連携して制作にあたる。 ・笑顔の挨拶運動を推進して、人間関係づくりを行う。 ・人権ホームルーム等を通して、個々の生徒が自尊感情を高めるとともに、生徒どうしがお互いの気持ちを慮りながら高校生活を送れるよう人権教育を実施する。 <p>(2)</p> <p>ア・「中高連絡会」や中学校訪問を実施し、生徒情報交換等、中高の相互理解・連携を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学等、中学校・小学校を相互見学する。また、出前授業、部活動での合同練習や指導を行う。 <p>イ・ホームページをリニューアルし「IBANISHI NEWS」の内容と同調させながら、リアルタイムの情報発信に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立て看板、回覧板、玄関大型画面等を活用して情報発信する。 <p>(3)</p> <p>ア・学校、家庭、地域の連携による学習支援、安全安心、地域連携のサポートチームをつくる。</p> <p>イ・校長や地域の住民等を講師にして、親学について保護者と協議する。</p> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校協議会委員による授業見学と授業研究を行う。 ・授業アンケートの結果について協議し、意見・提言を求める。 ・学校教育自己診断項目および結果について、協議し、意見・提言を求める。 	<p>(1)</p> <p>ア・部活動加入率70%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校生や来校者に向け玄関前に大型画面を活用して部活動の実績を紹介する <p>(2)</p> <p>ア・地元中学校との連携組織を本格的に運営し、学期1回実施する</p> <p>イ・ホームページをリニューアルして、月1回以上の更新をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「IBANISHI NEWS」を12回以上発行する。 <p>(3)</p> <p>ア・学校、保護者、地域が連携した通学安全指導などの延べ参加人数を平成23年度比5%増とする。</p> <p>イ・研修等の延べ参加者40名以上をめざす。</p> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学校協議会を年2回以上実施する。 	<p>(1)ア・部活動加入率64.8%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型画面を活用して部活動の実績を紹介。(○) <p>(2)ア・地元中学校連絡協議会を設立し、教員が中学校に出向き講演を実施。(◎)</p> <p>イ・ホームページをリニューアルの校長室便り78号発信。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「IBANISHI NEWS」20回発行。(◎) <p>(3)ア・地域連携行事等の延べ参加者346人(前年比0%)あるが、地域の評価は非常に高い。達成感や貢献度を計れる指標を検討する必要がある。</p> <p>イ・PTA対象校長講話(子育て論)を実施。(○)</p> <p>教育コミュニティづくりへ向けた体制整備が課題。</p> <p>(4) ・新学校協議会を10/11, 2/7に実施。(○)</p>